神社の杜（三十四）

サクラ、さくら、桜

御岳ビジターセンター　片柳　茂生

今年は十二年に一度の式年大祭の年、たくさんの信者の方がお参りに来られ、ご神像の蔵王権現を拝むことでしょう。そこで今回は、蔵王権現のご神木である桜についてちょっと。

御岳山の桜は、四月上旬に咲くチョウジザクラ（丁字桜）に始まります。葉が出るより早く、枝先からうつむきかげんにひっそりと咲く白い花が早春の雑木林に彩を添えます。雑木林に自生し、数も少ないので目につく木は限られています。

次に咲くのが、おなじみのソメイヨシノ（染井吉野）です。成長が早く、葉が開く前に枝に群がって豪華に咲くので、今では桜の代表種になっています。しかしその誕生は新しく、江戸末期から明治初年といわれ、大島桜と江戸彼岸の雑種なのですが、それが自然に交配したものか、人工的に作られたものかは今だに解っていないとのことです。御岳山にも数多く植えられていますが、春先になると蕾をウソに食べられてしまう被害が多く、里で見るものよりいささか見応えに欠けるようです。

ソメイヨシノに少し遅れて、ヤマザクラ（山桜）が咲き出します。古代より桜と言えば山桜をさし、万葉集にも四十首あまり詠まれています。萌え始めた山の木々の中、うす茶色の新葉と白い花が一緒になり、山肌に浮かぶそのさまを眺めるのも美しいものです。『紅葉は近くで、桜は遠くから眺めるのが美しい』とはよく言ったものです。

イラスト　井口三月

この後、カスミザクラ（霞桜）、ミヤマザクラ（深山桜）とつづくのですが、もう一つ桜らしくない桜をご紹介しましょう。

五月の上旬に咲く、ウワミズザクラ（上溝桜）という桜です。古名をハハカ（波波迦）といい、小さい花がいくつも集まり穂状なって咲く姿をみれば、〝これが桜？〟と言いたくなるような木です。古代では占いに用いられていたといわれ、御岳山の太占（ふとまに）の薪に使用すると書かれた古文書もあります。

御岳山の桜前線はだいたい仙台と同じ時期になるので、里で見終わった後もう一度お花見ができます。式年大祭の参拝に合わせて、お花見を楽しんではいかがですか。

お初穂料

日本ではゲンを担ぐ事がよくあります。良い言葉には良い事が訪れ、逆におめでたい席で忌言葉があります。御嶽神社では農作物の取り入れがあるように、酉年に式年大祭が行われるとも言われます。また主食のお米は、八十八の手をかけ作られるので粗末にしてはいけない、米（よね）は命の根本ですなど、言葉や字にも我が国独自の感性が見られます。

イラスト　神田忠良

昔は春になると山から神様が来て田畑を潤し、豊作をもたらしてまた山に帰って行くと考えていました。だから収穫を祈る祈年祭（きねんさい）、感謝をする新嘗祭（にいなめさい）は、最も重要なお祭なのです。収穫は神様からの授かり物、だからその年初めに収穫された稲を神前に供えます。本来お米をお供えていたのですが、今日ではお金に代わりました。初宮・七五三・地鎮祭などで神社に出す熨袋に「お初穂料」と書くのはこの名残で、日本人の恥じらいと言葉を大事にする現れです。

片柳至弘

あとがき

社報二十四号は式年祭記念事業特集として、竣工なった境内の様子をお伝え致します。

新緑の四月・五月、式年毎日祭の期間中大勢の皆様方の御参拝お持ち申し上げております。

玉稿を賜りました奉賛会長石川要三先生、斎藤慎一先生、選句選評いただきました金子千侍先生には厚く御礼申し上げます。

平成十七年三月八日発行
〔年二回発行・非売品〕
編集　武蔵御嶽神社
TEL〇四二六（七八）八五〇〇
FAX〇四二六（七八）九七四一
印刷　㈱成和印刷